

地域に愛され、地域とともにある学校づくりの推進

下関商業高等学校

学校運営協議会について

- ① 委員の構成
15名（同窓会・PTA・地域の小・中学校・下関市立大学・地元企業・市役所等）
- ② 実施回数
年間2回（第2回は学校関係者評価委員会を兼ねる）
- ③ 主な協議内容
本年度の組織運営、本年度の学校教育目標と教育構想、下商コミスクの説明と協議（チャレンジショップ・商品開発・地域貢献（観光）・プログラミング教育）等

特色ある活動

- ◆ 3年生「課題研究」観光班の活動
地元企業やCSコーディネーターの協力のもと、下関市立考古学博物館見学、下関市歴史博物館見学、海響館バックヤード見学、長府地区散策、市内会社経営者による講話等を行って、下関市の観光活性化に関するレポートを作成した。
- ◆ 長州出島に来航した大型客船のお見送り
下関市のインバウンド観光活性化の一助として、下関市観光政策課及び下関市港湾局振興課と連携して、本年9月下旬に中国からの大型クルーズ船「コスタ・セレーナ号」が長州出島に来航した際、商業研究部2年生6名と1年生2名が、出航の際に浴衣に着替えてお見送り等を行った。

写真1

海響館での職員による説明



写真2

長州出島でのお見送りの様子



来年度に向けて

- ① 「学校運営」機能の強化
学校運営協議会において、学校評価・資料の工夫や会議の活性化を通じて、委員の方々の御意見を学校運営に反映させる体制を更に整える。
- ② 「学校支援」の充実
3年生「課題研究」観光班やチャレンジショップ班を中心に行っている地域人材の活用を、他の教科や科目、部活動等に広げていく。
- ③ 「地域貢献」の深化
下関市産業立地・就業支援課や下関市観光政策課等との連携を更に深め、地元下関の活性化についての具体的提言を積極的に行う。